

子志乃支々志呂布竟宴歌詞かよ子志
ろるり。世徳物語子女房の車さしろる源
氏子さしろるの考さしろるひそ程さ
くもさき

一三多ふ三行標注のひきかみせかきて伊智源
氏等の物語のつづら状なる密字の意
子似る別子高説阿りや減み記して教
をさふ

一四多ふ十一行をわいおりの作らへ下階全
一今二引りの下人字阿るべし

一七葉久来君の評よりをいをさへ
阿るも紀の私記子伊達也阿るも諸
本阿る七点より記の下巻純歌も七真
福寺本も於富有衰也阿るいを
を並用おる嬉なる似るをさへあ

別子高説阿りや減みさしろる教をさふ
全九行快を私記の多吹万志也よみ徳治本
も然なり建久年中事今年御苗
後前々年勝テ太く遅く集約ニ快遅
也と阿るを紀の快字也同義なり熱田踏歌

研 文 社

日縮乃実乃堅久韓事云て伊呂波字類
抄も韓字を然らぬも本文のありも
あふも似る

十二多ふ五行み代の代を世子作らへ唐人
太宗の名を避て世子代作らへり君
國の人を色を察を多を世代代作
す

全九行おのり四字削らるるし

頼房七女評多罪